

開催地名：広島県竹原市	
開催日時	令和2年2月16日（日） 10：00～11：30
開催場所	竹原市民館
語り部	菊池 健一（宮城県仙台市）
参加者	自治会、自主防災組織 約80名
開催経緯	<p>指定避難所は各地域に設けてあるが、避難所の所在地が土砂災害警戒区域内又は洪水浸水想定区域内に立地しているため、他の避難所まで相当な距離があることが問題となっている。また、平成30年7月豪雨災害では、避難者は市全体の約3パーセントであったが、地震等の災害時には相当数（人口の約半分）の避難者が出ることが予想される。さらに、大規模災害時の経験があまりないため、備えが進んでいない実情がある。今回、東日本大震災の語り部のお話を伺い、今後の防災活動の推進力としたい。</p>
内容	<p>（1）地震発生から避難所での生活</p> <p>町内会では、大規模災害に備えて、毎年、避難訓練を行っていたが、東日本大震災では、ほとんど役に立たなかった。激しい揺れに動揺する中、道路は寸断され、携帯電話、固定電話ともつながらないため、火の始末、出口の確保、家族への連絡、周りの人の安否確認等、身を守るすべてのことができなかった。</p> <p>避難所への避難についても、速やかに移動できない人たちが多く存在した。貴重品を探していたり、貴重品を置いていく事に抵抗を感じて避難を拒んだりする人もいた。命に係わる問題なので、毅然とした態度で避難を求めることが必要である。また、夜間はどうしても周囲の目が届かないので、自警団を編成して区域のパトロールを行った。</p> <p>避難所運営についても、スタート時点からうまく機能はしなかった。運営を阻害したものとしては、情報の不足、燃料の不足、通信手段の不足の3つが挙げられる。また、1つの避難所に、8つの町内会が集まっており、町内会ごとでは避難訓練を行っていたが、合同では実施してないため、連携がうまくいかず、運営に支障が出た。食事は1,500名分を用意したが、自宅避難者も避難所に来て食事の提供を受けたため、500食ほど不足した。トイレについても、1,500名の避難者に対して仮設トイレが2つしかなく、非常に困った。</p> <p>その他、避難所生活での主な問題点は以下のとおりである。</p> <p>① 避難所内のスペースの問題</p> <p>早く避難所に来た人から場所を確保するため、後から避難してきたお年寄りや女性は、入口近くの寒い場所しか空いていないという事態が発生した。また、着替える場所がない、自分が好きな時に寝ることができない、人と違うものを食べにくい、雑魚寝である等の問題が継続し、かなりのストレスが生じた。</p>

② 情報の不足の問題

正しい情報が不足して避難者の不安増大につながり、誤情報も飛び交った。行政による情報窓口の一本化が望ましい。

③ ペットの問題

避難所にペットを連れて来た人もいたため苦情が出た。ペットは癒しでもあるので、人の生活場所とは別のところにペットの避難所を作って対応した。  
※東京都は「ケージ」持参というルールあり

④ 指定避難所に慰問が集中してしまう問題

他県から慰問で来て、手品や吹奏楽の演奏が連日続くと、初めは良いが苦情が出るようになる。実施頻度や実施時間について調整が必要だと思う。

以上のような問題が発生し、避難生活に支障が出た。避難所はどうしても高齢者が中心になる。(実際9割が高齢者で占められた) 高齢者の目線で生活サイクルが維持できるように工夫する必要がある。

(2) 震災の教訓

燃料不足に対応するため、車の燃料は常に満タンを維持するとともに、冬季は灯油もある程度ストックしておくことが必要と言える。さらには、携帯電話の不通等に備え、無線を使用した訓練の実施もお勧めしたい。また、大規模災害が発生すると公助は期待できない。しばらくは自助、共助で乗り切る必要がある。行政、町内会、民生委員等との連帯を密にし、情報の共有化を図ることが必要だと感じた。地域、行政、学校と連携して、積極的な訓練の実施を行うとともに、町内会行事等に積極的に参加して、近隣住民と顔の見える関係を築き、コミュニケーションをとっていくことが必要であると感じた。そして、何より求められるのは、迅速な判断力と行動力である。



開催地より

避難を促すにあたっての苦労や、避難所運営の問題点などについて、体験を踏まえながらわかりやすく説明いただいた。今後の防災活動に役立つことと確信している。